



2022(仏暦2565)年 10月号 (第133号)

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



■住職法話

ほとけ によらい
仏さま(如来)の眼

■浄土真宗 (新)仏事のイロハ

■本願寺の本

いのちのゆくえ

■編集後記

年忌法要表

| | | | |
|------|-------------|------|-------------|
| 1 周忌 | 2021(令和 3)年 | 23回忌 | 2000(平成12)年 |
| 3 回忌 | 2020(令和 2)年 | 25回忌 | 1998(平成10)年 |
| 7 回忌 | 2016(平成28)年 | 27回忌 | 1996(平成 8)年 |
| 13回忌 | 2010(平成22)年 | 33回忌 | 1990(平成 2)年 |
| 17回忌 | 2006(平成18)年 | 50回忌 | 1973(昭和48)年 |



仏さま

(如来)の眼

今月の法語

悲しみあるがゆえに

よろこびあり

煩惱あるがゆえに

菩提あり

この法語は、伊東慧明『入門浄土真宗 真宗の教え 顕現さるべき私』(真宗大谷派宗務所出版部)からのことばです。この本の一部分です。

人間の眼は、自分の眼を見ることができません。いろいろなものを見ている眼でありませんが、この眼は、自分を見ることができないのです。自分自身を、直接に見

るということはできないのです。このことから明らかかなように、人間の眼、人間からの視野に映るのは、限られた部分であり、皮相にしかすぎないのであります。

そこで、われわれは、如来の眼によつて見いだされてある人間、如来からの視座のなかにとらえられている人間を知ることができはじめ、人間の全体像を知りうることとなるのであります。だから、人間が、人間であることの実相にめぐめるためには、この如来からの眼が、何よりも大切なこととなるのであります。

同じく、仏さま(如来)からの眼の大切さを味わえるのが『正信偈』の中にもあります。

我亦在彼摄取中
煩惱鄣眼雖不見
大悲無倦常照我

わたしもまた阿弥陀仏の光明の中に摂め取られているけれども、煩惱がわたしの眼をさえぎつて、見たてまつることができない。しかしながら、阿弥陀仏の大きな慈悲の光明は、そのようになわたしを見捨てることなく常に照らしていただく。

「悲しみ」と「喜び」、「煩惱」と「菩提(悟り)」という相

対することばが仏さまの眼を通して味わえる法語です。

我執、我欲の世界に迷い込み、そこから抜け出せない私を、そのままの姿で救おうとはたらき続けていくださる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難いお慈悲はありません。しかし、今ここの救いの中にありながらも、そのお慈悲ひとすじに任せできない、よろこべない私の愚かさ、煩惱の深さに悲嘆せざるをえません。これは、本願寺のご門主が二〇一六年の伝灯奉告法要でお示しくくださった「親教の深いお言葉です。



浄土真宗

◎ 仏事のイロハ

三、お墓と納骨

―亡き人を偲ぶ縁として―

「納骨とお墓参り」

いつまでも家に置いて

おくのは……？

前に、「葬儀の「葬」という字は、「原野に安置した遺体の残骨を拝するかたち」だと申しました。ということは、拝するための場所に遺骨を納めて、はじめて葬の儀式は完結するということなのでしょう。つまり、亡き人の死を受け入れて遺体を家から送り出すのが前半の葬（原野に運び行為）。変わりはてた遺骨を縁に、亡き人の普遍的価値を見出して拝するために埋葬す

るのが、後半の葬（遺骨を拝する）ということなのです。

この埋葬が、通常、お墓に納めるという行為になります。納骨の時期については、特に決まりはありませんが、そういう観点からすると、いつまでも家に置いておくことは避けたいものです。満中陰あるいは百か日あたりが、一つの目安になります（地域で違いはあります）。お墓に納める時には手次ぎのお寺に依



頼して、納骨のお勤めをしてもらってください。石碑に付いた汚れやドロを落として、墓前に花やお香、供物などを供えて、気持ちよくお参りしましょう。

ところで、お墓参りで、心得ていただきたいことがあります。それは、遺骨や石碑はあくまで亡き人を偲ぶ縁であって、実体として捉えるものではありません。「先祖の霊を慰めていました」という表現がありますが、この「霊」という言葉が、固体的実体的な靈魂を意味しているとすれば、それは仏教、特に浄土真宗の味わいではありません。言うまでもなく遺骨は故人ではないのです。もっとも、そう錯覚してしまいがちなのが私たちです。それだけに、しっかりとした

死生観を持つことが大切でしょう。亡き人はお墓の中にいるのではなく、浄土に生まれて仏さまになっておられます。無量のいのちをいただかれて、私たちにいつも寄り添い、まごころをかけ続けてくださっているのです。

亡き人の私たちにかけられたそうした願いとはたらきを聞くと同時に、諸行無常の理をかみしめながら、確かな依りどころとなる念仏を味わう―それが浄土真宗のお墓参りです。

「浄土真宗 ◎ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



～本願寺の本～

「いのちのゆくえー浄土真宗のお墓と納骨ー」

若林 真人 著

本願寺出版社 刊 165円(税込)

宗教と出会うきっかけの一つに大切な人との別れがあります。なき人を偲んで建てられたお墓にはどのような意味があるのでしょうか。お墓を建立しお参りする人の思いを聞くなかで、大切な人との別れを仏教(浄土真宗)の教えを通して受けとめ、
お墓やおたにほんびよう
お墓や大谷本願に納骨する意義を深めていきます。

[本願寺出版社ホームページより]



携帯サイト

携帯電話からも商品をご注文いただけます。

QRコードからアクセス→



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要

立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
第4期 5月6日(土)～5月11日(木)
第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day

親鸞聖人のご命日です ご参拝ください

浄土真宗本願寺派
龍谷山 本願寺

編集後記

「住職法話」の内容は、お言葉を引きかせていただきながら進めました。◆「仏事のイロハ」は、葬儀の項が終わりしました。今回から、特に相談事が多い、お墓のこと、お骨のことなどに関することとなります。「本願寺の本」の紹介もあわせて参考にしてみてください。◆門信徒会会員の皆さまには、寺報とともに来年のカレンダーを一緒にお届けしました。今までと違って予定なども書き込めるので、身近に置いて頂いて気軽にお使いください。

